

# 5

## 復興防災学習プログラム

復興防災学習プログラム運営チーム  
石堂淳理事、高等教育推進センター 江村健介、総合政策学部 杉安和也、盛岡短期大学部 千葉啓子、熊本早苗、吉原秋、Hamish Smith、Patrick Maher

該当する  
原則

### 原則9：持続可能性を推進する

#### 1. 飲料水ペットボトル配布活動（水ボラ）の始まり

飲料水ペットボトル配布活動（通称「水ボラ」）は、2011年3月に発災した東日本大震災津波被害に対する支援物資として岩手県に寄せられた飲料水のペットボトルを、自分自身も出張中に津波に遭遇した岩手県立大学盛岡短期大学部の教員が、岩手県立大学の学生・教職員と一緒に、被災者が居住する仮設住宅に手渡しで届けたことから始まりました。

ライフラインが復旧し、支援物資の提供が終了した後も、公益財団法人本庄国際奨学財団からの寄付金や(株)伊藤園からの飲料水の提供などの支援を受けながら、「仮設住宅等への転居を余儀なくされた地域住民に対し、世帯ごとに飲料水を配布することで会話のきっかけとし、『声かけ』『見守り』を行うとともに、新たな地域コミュニティ形成の一助とする」ことを趣旨として活動が続けられました。

#### 2. 学生交流への拡大

一方、オハイオ大学（アメリカ合衆国オハイオ州アゼンズ市）からは、2011年の震災発生直後に合同ボランティア活動の申し出を頂き、中部大学（愛知県春日井市）に留学中のオハイオ大学の学生や教職員と本学の学生・教職員が毎年度一緒に、宮古市や山田町等において活動を行っていました。

2013年度、この合同ボランティア活動に「水ボラ」を取り入れたことにより、参加者の範囲を拡大した「拡大水ボラ」と呼ばれるようになりました。中部大学とオハイオ大学は既に約50年前から交流が行われていたところ、2016年度には岩手県立大学からオハイオ大学への学生派遣制度が創設されたことを契機に、3大学の学生交流が可能となりました。また、2018年度からは、これら3大学に加え、本庄国際奨学財団の奨学生である全国各地の大学生や大学院生（外国人留学生を含む）も参加するようになり、4団体による活動となりました。

#### 3. 復興防災学習プログラムへの進化

2022年から、サービスマーケティングを中心とした防災学習「復興防災学習プログラム」に位置付けを進化させ、Covid-19の蔓延による2年間の休止を経て3年ぶりに活動を復活させました。

2023年は、被災から約10年を経て完成した高田松原津波復興祈念公園と岩手県立野外活動センターを中心会場として、3団体（オハイオ大学は都合により参加しませんでした）から学生・教職員合わせて62名が参加しました。



県営栃ヶ沢アパート集会所前で記念撮影

##### (1) 参加者の内訳

所属団体	学生	教職員	計
オハイオ大学	-	-	-
中部大学	5	3	8
公益財団法人本庄国際奨学財団 株式会社伊藤園	21	5	26
岩手県立大学	15	13	28
計	41	21	62

##### (2) プログラムの概要

###### ①事前学習・交流会1（アイスブレیکنング） 【岩手県立野外活動センター】

参加3団体の代表者からの挨拶に続き、東日本大震災津波を契機とした飲料水配布活動（水ボラ）と、これま

での交流の経緯等について説明が行われた後、アイスブレیکنング「Getting-to-know-you BINGO」により参加者相互の交流を図りました。



アイスブレیکنングの様子

###### ②東日本大震災津波遺構等見学 【高田松原津波復興祈念公園】

高田松原津波復興祈念公園において、全員で集合写真を撮影。その後2班に分かれ、現地ガイドの解説をいただきながら東日本大震災津波伝承館、防潮堤（海を臨む場）、奇跡の一本松のほか、2021年から新たに内部が一般公開された旧気仙中学校を見学しました。



旧気仙中学校の見学の様子

###### ③住民との交流プログラム（水ボラ） 【岩手県営栃ヶ沢アパート】

参加者が6班に分かれて、(株)伊藤園から提供頂いただいたお茶のペットボトルを配布しながら、住民の皆さん



活動の様子

への「声掛け」活動（水ボラ）を行いました。

###### ④交流会2（キャンプファイヤー） 【岩手県立野外活動センター】

2日目の夜はキャンプファイヤーを囲んだ交流会を実施しました。「火の神」による点火式の後、「ジェンカ（フィンランドのフォークダンス）」を皮切りに外国人留学生の母国など世界各国の歌と踊りが披露され、参加者全員で盛り上がりました。開催地である岩手からは、「盛岡さんさ踊り」が紹介されました。



ジェンカの様子

###### ⑤避難所開設体験 【岩手県立野外活動センター】

3日目は、3.11仮設住宅体験館を見学後、陸前高田グローバルキャンパスにおいて「失われた街」の模型や避難所資材等の見学と、防災研修として災害発生後の行動をイメージするワークショップを受講しました。また、引続き団体を代表する3人の学生による振り返りの結果を発表し、今年度のプログラムを締めくくりました。



仮設住宅体験